

## 保育環境における遊具の種類と幼児の遊びについて

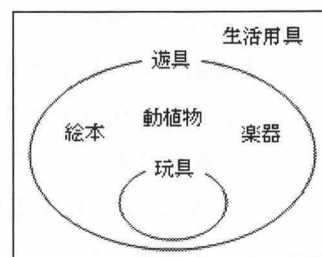
愛知教育大学大学院 2年 千田 隆弘

### I 研究目的

子どもは「遊び」によって育ち、それを助ける物として「おもちゃ」がある。私は「子どもが遊ぶ」場である「おもちゃ図書館（おもちゃをそこへ訪れる子どもたちに貸し出したり遊ばせたりする場）」やいくつかの園を見てきて、場によって置いてあるものに差異があると感じた。

幼稚園教育要領において「遊び」が重要であると言われているが、具体的にどのような「遊具・玩具」を揃えれば良いかということは1995年に幼稚園設置基準が改定されてから書かれておらず、保育者に委ねられている。また、保育環境における遊具全体を網羅した研究は見当たらない。そこで本研究では、現在、具体的に園にはどのような遊具があり、それらは学年別や公立と私立、幼稚園と保育所別に見るとどのような傾向があるのか、子どものどのような遊びに繋がっているか実態を調査し、問題点について検討したい。

本研究では「遊び」に用いられる物を「遊具」とし、図Ⅰのように広義的に捉えて、玩具（おもちゃ）、絵本、楽器、動植物も含めている。ただし生活用具は除く。



図Ⅰ

特に動物を含めたことについては、子どもの姿を参考にしている。それは、虫の歩き方を観察したり、魚の形や動きを眺めたり、小動物に触れて感触を確かめたりして遊んでいる姿である。また、アリを踏みつけてみたり、バッタの足をちぎってどのような動きをするのか見てみたりするという、一見残酷でそこに居合わせた大人には働きかけが要求されるが、そこから生命を学んでいる光景もある。よって、ここでは子どもが主体的に関われる動物についても含めている。

次に遊具を分類するため、「遊びの分類」を調べた。

#### (1) ビューラーの分類 心理的な機能の面から分類

- ① 感覚遊び（機能遊び）
- ② 運動遊び
- ③ 模倣遊び（想像遊び・ごっこ遊び）
- ④ 構成遊び（想像遊び）
- ⑤ 受容遊び

#### (2) カイヨワの分類 遊びの根本的な態度を視点に分類

- ① 競技遊び（アゴン：ギリシャ語で競技の意味）
- ② 偶然遊び（アレア：ギリシャ語でサイコロ、サイコロ遊びの意味）
- ③ 模倣遊び（ミミクリ：英語でものまねの意味）
- ④ 眩暈遊び（イリンクス：ギリシャ語で渦巻きの意味）

#### (3) ピアジェの分類 精神機能の発達の視点から分類

- ①機能行使の遊び
- ②シンボル遊び（ごっこ遊び・想像遊び・模倣遊び）
- ③ルール遊び

そしてこれらの分類から次の「玩具の分類」を導き出し、これを基に調査した。

- ①感覚玩具…五感で楽しむ玩具（例：シャボン玉、砂、楽器）
- ②運動玩具…体を動かして楽しむ玩具（例：ブランコ、跳び縄、ボール）
- ③模倣玩具…真似たりなりきったりして楽しむ玩具（例：ままごと、ぬいぐるみ、ミニカー）
- ④構成玩具…かいたりつくったりして楽しむ玩具（例：砂、つみき、クレヨン）
- ⑤受容玩具…知識を得るなど受動的に楽しむ玩具（例：動植物、絵本、写真）
- ⑥規則玩具…ルールにしたがって楽しむ玩具（例：かるた、トランプ、すごろく）

## Ⅱ 観察調査

### 1. 目的

保育環境にある玩具やコーナーを具体的に知ると共に、その場での子どもの遊びを見る。

### 2. 方法

2006年10月から11月にかけて、愛知県内の公立幼稚園4園、私立幼稚園4園、公立保育所3園、私立保育所3園、夜間保育所1園の計15園を対象として各学年1クラスと廊下や園庭などの共有場所にある玩具とコーナーを調査した。

### 3. 結果と考察

各園の玩具とコーナーをまとめ、「玩具まとめ表」を作成した。表Ⅰはその例として園A（公立幼稚園）のものを記載した。

その結果、コーナーについては夜間保育所を除く14園中「ままごとコーナー」が12園、「製作コーナー」が8園、「絵本コーナー」が6園、「つみき・ブロックコーナー」が4園にあることがわかり、これらが保育環境における主なコーナーであることがわかった。

次に玩具の種類数を項目毎に集計し（表Ⅱ参照）、それを園別にまとめ、「学年」「玩具の分類」「公立・私立・幼稚園・保育所」別に集計し、グラフ化した。

#### (1) 学年別集計結果

どの学年も「運動玩具」「模倣玩具」「構

表Ⅰ 園A（公立幼稚園）の玩具まとめ表

	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス
感覚玩具	触覚：砂場の砂 聴覚：ピアノ、マラカス（手作り）、テープとブレイヤー	触覚：砂場の砂 聴覚：ピアノ、テープとブレイヤー	触覚：砂場の砂 聴覚：オルガン、テープとブレイヤー、タンバリン、カスタネット、鈴、タワロープ製スカート（音楽にあわせて踊るときに使う）
運動玩具	固定：ブランコ（ゴム）、うんてい、鉄棒、遊具（すべり面、階段、板、斜めロープネット、つり橋、トンネル） 非固定：乗用カー、ぼくろ、ジャンピング（円柱状の小さなトランポリンみたいなもの）、三輪車、マット、おてだま	固定：のり棒 非固定：跳び箱、マット（陣地として使ったりころがるときに使ったりする）、巧技台、竹馬、ホッピング、三輪車、キックボード、乗用カー、横はしご（巧技台の一部として）、平均台、ジャンピング、ドングリ（紐がしるゲーム（子どもの手製）、跳び縄、小さなフープ、ボール類	固定：のり棒 非固定：跳び箱、マット（陣地として使ったりころがるときに使ったりする）、巧技台、竹馬、ホッピング、三輪車、キックボード、乗用カー、横はしご（巧技台の一部として）、平均台、ジャンピング、ドングリ（紐がしるゲーム（子どもの手製）、跳び縄、小さなフープ、ボール類
模倣玩具	ハウス、電子レンジ（本物）、机、ペンチ ままごと：料理（流し台（蛇口なし）、コンロ、鍋、おたま、スポンジたわし） はし、スプーン、フォーク、ナイフ、カップ、茶碗、皿、弁当箱、水筒、食べ物（ドングリ、マツカサ） 【他】物干し台（Tが大型つみきと棒で作ったもの）、かばん、ベレーカー、ビクニョネット	ままごと：料理（流し台（蛇口なし）、コンロ、なべ、おたま、ポット、なべ、おたま、しゃもじ、箸きあみ） 【食器】食べ物（鍋のボール、手製のサイドイッチ）、スプーン、フォーク、皿、カップ、れんげ、弁当箱、【他】電話機、おもちゃの時計、ベッド	ままごと：料理（流し台（蛇口なし）、コンロ、なべ、おたま、ポット、なべ、おたま、しゃもじ、箸きあみ） 【食器】食べ物（鍋のボール、手製のサイドイッチ）、スプーン、フォーク、皿、カップ、れんげ、弁当箱、【他】電話機、おもちゃの時計、ベッド
構成玩具	玩具：人形、ぬいぐるみ、車、汽車と線路（本製）、砂場用ミニカー（プラ製）	玩具：人形、ぬいぐるみ、車、汽車と線路（本製）、砂場用ミニカー（プラ製）	玩具：人形、ぬいぐるみ、車、汽車と線路（本製）、砂場用ミニカー（プラ製）
受容玩具	動物：草花 本：物語、ゲーム、図鑑、学習（計23冊） 動物：ウサギ（園下）	動物：草花 本：物語、図鑑（計22冊） 動物：ドングリ、クリ、マツカサ、ジュズダマ	動物：草花 本：物語、図鑑、ゲーム、おりがみ、迷路（計10冊） 動物：モルモット（園下）、ドングリ、マツカサ、ジュズダマ、ススキ その他：文字・数字はんこ
規則玩具	常設：図書コーナー（本が2000冊以上あり、無償貸し出ししている。） 常設：ままごとコーナー、製作コーナー、絵本コーナー 仮設：—	常設：図書コーナー（本が2000冊以上あり、無償貸し出ししている。） 常設：ままごとコーナー、製作コーナー、絵本コーナー 仮設：—	常設：図書コーナー（本が2000冊以上あり、無償貸し出ししている。） 常設：ままごとコーナー、製作コーナー、絵本コーナー 仮設：—
コーナー	常設：図書コーナー（本が2000冊以上あり、無償貸し出ししている。） 常設：ままごとコーナー、製作コーナー、絵本コーナー 仮設：—	常設：図書コーナー（本が2000冊以上あり、無償貸し出ししている。） 常設：ままごとコーナー、製作コーナー、絵本コーナー 仮設：—	常設：図書コーナー（本が2000冊以上あり、無償貸し出ししている。） 常設：ままごとコーナー、製作コーナー、絵本コーナー 仮設：—

成遊具」と比べ、「感覚遊具」「受容遊具」「規則遊具」が少ないことがわかった。種類数で集計したため遊具の分類の枠を超えての比較は難しいが、以上のような特徴は見ることができる。また、種類数以外での集計は今回行っておらず、例えば、絵本に関しては冊数ではなく、物語や図鑑などの種類数で集計している。

## (2) 遊具の分類別集計結果

学年で比較すると、「感覚遊具」「運動遊具」「構成遊具」「受容遊具」「規則遊具」の数は学年と共に増加し、「模倣遊具」「コーナー」は減少することがわかった。特に、「模倣遊具」は大きく減り、「構成遊具」は大きく増えている。ピューラーは、模倣遊びの発現頻度は4歳から5歳にかけて激減すると述べている。また、成長と共に遊びに必要なものを自分たちで作るようになることなどがこのような傾向に表れたのではないかと考えられる。

## (3) 公立・私立・幼稚園・保育所別集計結果 (表Ⅲ)

次のことがわかった。

①感覚遊具 私立よりは公立、保育所よりは幼稚園の方が多く、公立幼稚園は私立保育所の約2倍という結果が出た。これは、公立幼稚園が他と比べて、日常から多くの「楽器」を環境に置いていることが要因であると考えられる。

②運動遊具 公私に大きな差は無く、幼稚園より保育所の方が多くの運動遊具を置いていることがわかる。

③模倣遊具 公立幼稚園が他と比べてとても多い。この傾向はコーナー数にも表れており、ままごとコーナーにおける遊具の種類数が数値に影響したと考えられる。

④構成遊具 公立幼稚園が最も多く、次いで公立保育所、私立保育所、私立幼稚園の順であった。公立園は「製作」の材料などの数を多く揃えていたため、それが反映されたようである。

⑤受容遊具 私立よりも公立、幼稚園よりも保育所がやや多くあるという結果が出た。総平均自体の数が他の遊具と比べて少ないことは、本の冊数ではなく種類数で集計していることが影響しているからだと思う。

⑥規則遊具 総平均値の2倍以上の数が公立保育所にあることがわかった。総数が他の遊具と比べて少ないのではっきりしたことは言えないが、公立保育所以外は規則遊具への関心が低いと感じられる。

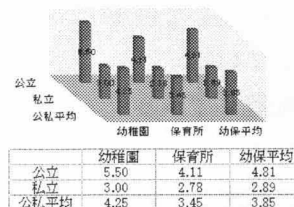
以上のことから、公立園と比べて私立園は運動遊具以外の遊具の種類が少ないことがわかった。公

表Ⅱ 園Aの遊具の種類数

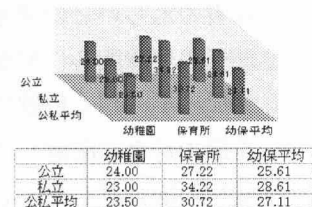
	3歳	4歳	5歳
感覚	4	3	7
運動	15	25	25
模倣	29	25	4
構成	36	43	62
受容	6	7	12
規則	0	0	0
コーナー	3	4	3

表Ⅲ 公立・私立・幼稚園・保育所別集計結果

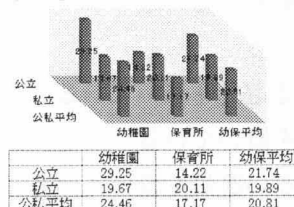
①感覚遊具



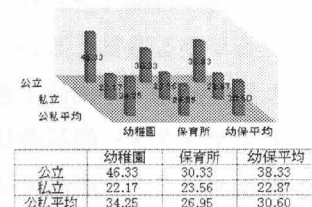
②運動遊具



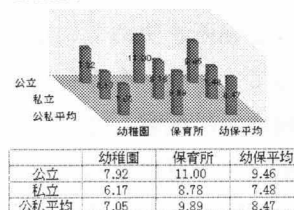
③模倣遊具



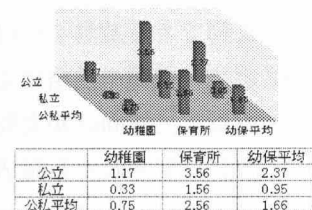
④構成遊具



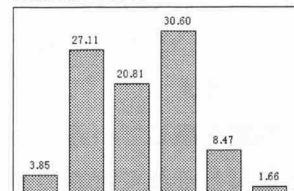
⑤受容遊具



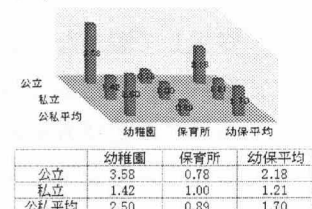
⑥規則遊具



各遊具の総平均のグラフ



コーナー



立園の民営化が進む現在、子どもの発達や遊びの充実を考えるとこの傾向はやや問題があるのではないだろうか。次に、幼稚園と保育所の差に着目してみると、「②運動遊具」は保育所に、「③模倣遊具」と「④構成遊具」は幼稚園に多いという傾向が見られた。これは保育所では外遊びを保育の中心に考えており、幼稚園はコーナーも多く、室内遊びも視野に入れているという背景があるのかもしれない。これらについてはより詳しい調査・分析が必要であろう。

### Ⅲ. アンケート調査

#### 1. 目的

観察調査では確認しきれない普段の子どもの姿や、遊具環境に対する保育者の考えを知る。

#### 2. 方法

観察調査を行った園の園長14名と各学年担任計50名に対し、以下のアンケート調査を観察と同時に実施した。(回収率88%、有効回答数56名)

#### A. 遊具環境と遊びについて（1は記号回答、2～11は記述回答）

##### 1. 遊具の設定や配置について

- ① 幼児の発達状況に合わせている
- ② 保育のねらいとの関連に配慮している
- ③ 幼児の興味関心に配慮している
- ④ 幼児の手の届く位置に配置している
- ⑤ 季節や行事に配慮している
- ⑥ 遊具の取り出しやすさに配慮している
- ⑦ 幼児の目線に合わせて配置している
- ⑧ 音が出る遊具を置いている
- ⑨ 教育的効果が期待できる遊具を置いている
- ⑩ キャラクター商品遊具を置いている
- ⑪ キャラクター商品ではない遊具を置いている
- ⑫ 遊具を広げる場所を確保している
- ⑬ 移動できる遊具を片付ける場所を決めている
- ⑭ 遊びの種類や性格によってコーナーを作っている
- ⑮ 遊具は男児向けか女児向けかに配慮している
- ⑯ 遊具に記された年齢表示（3才児以上向けなど）を参考にしている
- ⑰ 布や木、プラスチック、金属など、多様な素材と関われるように配慮している

##### 2. 意識して置いている遊具の名とその理由

##### 3. 意識して置かないようにしている遊具の名とその理由

##### 4. 遊具の数や種類についての考え

##### 5. 遊具での遊び方をみて問題を感じている点

##### 6. 現在、一番人気のある遊具とそれで遊ぶ様子

##### 7. 男女での人気や遊び方の違いがある遊具とそれで遊ぶ様子

##### 8. 本来の遊び方と違う遊び方をしている遊具とその様子

##### 9. 自由遊びでしか扱わない遊具

10. 課題遊びでしか扱わない遊具  
 11. (担当クラスに限らず) これまでの保育経験で遊具を置いて良かったことや悪かったこと  
 B. 遊具の安全面、衛生面について (記号回答)  
 i 尖った部分がある遊具は置かない  
 ii 誤飲のおそれのある遊具は置かない  
 iii 口に入る可能性がある遊具は、素材や着色料に配慮している  
 iv 遊具はSTマークのついているものを置くようにしている  
 v 汚れにくい素材の遊具を選んでいる  
 C. 遊具と幼児の遊びについての意見 (記述回答)

### 3. 結果と考察

記号回答の設問 (①～⑰と i～v) では、よくあてはまるものには◎、ややあてはまるものには○、ややあてはまらないものには△、全くあてはまらないものには×の4段階で回答を求め、◎を3、○を2、△を1、×を0として換算し、合計、平均を出した。そしてそれらを「園長と各学年担任」「公立・私立・幼稚園・保育所」「保育経験年数」別に集計したところ、次のような傾向が見られた。

#### (1) 「園長と各学年担任」別集計

各項目の値の大きいものを第5位までまとめると表Ⅳとなる。この表から、全ての列に「③ 幼児の興味関心に配慮している」があるという共通部分がある一方、園長には無い「④ 幼児の手の届く位置に配置している」が各担任にはあるという、立場の違いからの傾向などがわかった。また、「① 幼児の発達状況に合わせている」という保育の基本とも言うべきものについても、園長と担任とでは意識の差があることがわかった。

#### (2) 「公立・私立・幼稚園・保育所」別集計

公立幼稚園は④⑥⑦⑩⑫⑭という遊具環境に対する意識が他に比べて特に高いことがわかり、公立保育所は③⑬⑰ v が高く、子どもの心への配慮などが見て取れた。尚、私立園は他と比べても特に高い数値は得られなかった。

次に各項目の値の大きいものを第5位までまとめると表Ⅴとなる。

この表から、どの列にも③④⑥があることから、これらに対する意識はどの園も高い傾向にあることがわかる。また、数値で見ると、いずれにも③が含まれているが、「公立」と比べて「私立」は低いという結果が出ている。そして、①は「公立」にのみあり、「私立」ではそれ以外への意識の方が高いようである。

#### (3) 「保育経験年数」別集計

大きな変化はなかったが、年数が増えると共に数値が増加しているものを挙げると、①③⑰ ii iii iv であり、経験年数が増えると共に、発達や

表Ⅳ 「園長と各学年担任」別集計ベスト5

	園長	担任 平均	3歳 担任	4歳 担任	5歳 担任
1	① 2.92	③ 2.75	③ 2.92	⑮ 2.70	④ 2.85
2	③ "	④ "	④ 2.85	⑫ 2.64	⑬ "
3	② 2.83	⑬ 2.73	⑦ "	⑬ 2.60	③ 2.77
4	⑤ 2.67	⑮ 2.67	⑮ "	② 2.55	⑥ 2.69
5	⑥ "	⑥ 2.64	① 2.77	③ "	① 2.62
	⑦ "		⑥ "	④ "	

表Ⅴ 「公立・私立・幼稚園・保育所」別集計ベスト5

	公立 幼稚園	私立 幼稚園	公立 保育所	私立 保育所
1	① 2.83	③ 2.68	③ 3.00	③ 2.60
2	③ "	④ "	① 2.90	④ "
3	④ "	⑬ 2.67	② 2.80	⑤ "
4	⑤ "	⑮ "	⑬ 2.78	⑥ "
5	⑥ "	⑫ 2.53	④ 2.70	⑦ "
	⑦ "	⑥ "	⑤ "	⑪ "
			⑥ "	⑬ "

興味関心、素材、安全面への関心が高まるようである。

以上の(1)～(3)において「② 保育のねらいとの関連に配慮している」は、他と比べて低い結果となった。本来、保育環境は「保育のねらい」に関連させて設定するものであることを考えれば、今回の結果はやや問題であるとも考えられる。

また、Bの安全面、衛生面の項では、安全マークに対する認識が低いことや、5歳児でも誤飲の事故があるにも関わらず、4歳児以上の担任は誤飲の危険はあまり想定していないことがわかった。

(4) 記述回答部分について [ ] 内は回答者数

「A-2. 意識して置いている遊具の名とその理由」では、発達[2]や季節[4]という「時期」と、ままごと[10] 廃材[10] つみき・ブロック[6] などという「遊び」、そして自然素材[7] という「素材」の視点の回答があった。反対に「A-3. 意識して置かないようにしている遊具の名とその理由」としては、キャラクター遊具[8] 動きが大きい運動遊具[8] 危険物[6] などの回答があった。

「A-4. 遊具の数や種類についての考え」では、子どもの把握しやすい数[9] 3歳は多く5歳は少なく[6] というものと、発達[18] 子どもの様子[7] 時期[4] に合わせるという回答があった。

「A-6. 現在、一番人気のある遊具とそれで遊ぶ様子」では、つみき・ブロック[9] 製作遊具[9] ままごと[8] 乗用遊具[6] という回答があった。また、「A-7. 男女での人気や遊び方の違いがある遊具とそれで遊ぶ様子」では、男児はつみき・ブロック[6] 乗用遊具[4] ボール[2]、女児はままごと[5] お絵描き[2] という「遊具」による違いと、同じ大型つみきでも男児は基地や乗り物、女児は家や病院に見立てるという「遊び方」の違いの回答があった。

「A-9. 自由遊びでしか扱わない遊具」では、ままごと[15] ブロック[13] つみき[11] 砂場[5] という回答があり、反対に「A-10. 課題遊びでしか扱わない遊具」では、楽器[5] という回答が主であった。

「A-11. (担当クラスに限らず)これまでの保育経験で遊具を置いて良かったことや悪かったこと」では、「良いこと」として、人間関係を育む[7] 遊びのきっかけになる[4] 遊びが広がる[5]、そして「悪いこと」としてケガ[1] 完了しないまま次の遊びをする[1] という回答があった。

「C. 遊具と幼児の遊びについての意見」では、発達に関する回答[5] などがあった。

#### IV. 各遊具とコーナーについての考察と提言

##### 1. 感覚遊具

これは他と比べて、種類も数も少ないことがわかった。砂場の砂はどの園にもあったが、楽器はあっても普段は遊べない園が多くあった。本物の楽器が難しければ廃材の楽器を置くなど、もっと五感に触れる遊具を増やしても良いのではないだろうか。

##### 2. 運動遊具

1995年に改定される前の幼稚園設置基準では「すべり台」「ブランコ」「砂遊び場」を備えなければならないと書かれていたが、現在は「すべり台」と「砂遊び場」は全ての園(夜間保育所を除く)にあったものの、「ブランコ」は保育所にはあるが、幼稚園には少ないことがわかった。3歳では危険なので置いていないという意見もあったが、ゴム製のものを設置して安全面に配慮している園もあった。「ブランコ」は子どもにとって魅力ある遊具であることを考えれば、取り除くのではなく、安全面に工夫して設置してはどうだろうか。

##### 3. 模倣遊具

いわゆる女児向けの「ままごとコーナー」「ぬいぐるみ」「人形」「ドレス」は多くの園にあったが、



男児向けの「基地コーナー」「ロボット」「怪獣」「鎧」はなかった。(ただし、「怪獣」は1保育所、「ロボット」「怪獣」は夜間保育所にあった。)男児は「戦いごっこ」や「擬音を使った遊び」が好きだと思う。例えば「戦いごっこ」では友人同士で戦うこともあるが、一緒に架空の敵と戦い団結を深める活動ともなる。危険を予防した上で、もっとそれらを叶える環境を増やすなど、男女の遊び内容の違いに応じた環境構成を工夫しても良いのではないだろうか。

#### 4. 構成遊具

「つみき」は構成だけではなく、数や量を学ぶ遊具でもある。しかし、規格の違うつみき同士では「倍」や「半分」を体験しにくく、混ぜて扱うことは難しい。これはブロックでも同様で、『レゴ』と『ダイヤブロック』など一見似ているが規格が異なるものは、一緒には遊びにくい。また、ピースが不足したままのジグソーパズルは、遊びを完了することができないので異なる規格同士のつみきやブロックと同じく、子どもの「達成感」を阻害してしまう。この視点も保育環境の構成には大切ではないだろうか。

#### 5. 受容遊具

他と比べて種類が少ないことがわかった。絵本を冊数ではなく種類数で集計したことや、調査時期が秋ということもあり虫などの小動物が少なかったこと、また、写真や地図などを貼っているクラスが少なかったことが、このような結果につながったようである。

また、中にはページが無いなど破損した絵本も見られたが、園によっては修理するシステムが設けられており、物を大切に扱う心を育てているところもあったので参考にしたい。絵本は種類を増やしつつ、扱いが雑にならないように、また、どのような絵本があるかを把握しやすいように同時に置く冊数を減らし、適当な期間で入れ替えるという環境構成を提案したい。

#### 6. 規則遊具

まったく置かれていない園もあれば、4歳児以上がすごろくで遊ぶ姿を見ることもできた。「規則遊具」はルールの大切さを学ぶだけでなく人間関係を築くことにも大きく役立つので、冬など一時期に限らず、普段から遊具環境に取り入れてはどうだろうか。

#### 7. コーナー

磁石や鏡、虫眼鏡などを置いた「自然科学コーナー」や、木工ができる「大工コーナー」などは今回見られなかったが、その理由には何があるのだろうか。これらのようなコーナーや特別室があると、より遊びが広がるのではないだろうか。ただし、調査時には無かった「ままごとコーナー」が以前は設置されていたというクラスがあったこともあり、今回のように1日だけの調査ではなく、長期的な調査も必要だと感じたので、今後の研究課題としたい。

### V. まとめ

遊具環境を調査するにあたり、アンケート調査だけでは遊具全体の把握は困難だと感じたため、観察調査とアンケート調査を実施した。調査前の予想では、各幼稚園と各保育所では同様な遊具環境があると思っていたのだが、多少の傾向があるものの、各園によって様々な遊具環境があることが本研究を通して知ることができた。

設置基準が無いことで各園の遊具環境は保育者に任せられているのが現状であり、園によって特色があることや差異があることは、その地域の特性や保育者の願いが反映されていると思われるので、一概に否定はできない。しかし、子どもが過ごす空間という意味では共通であるので、園具・教具を整備する際の実質的な指針に先駆けた『幼稚園の園具・教具の整備等に関する調査研究協力者会議報

告』を参考にしたい。そこには「すべり台、三輪車、野菜園、土山、かなづち、太鼓、ラジオ受信機」など各園にあった遊具から無かった遊具まで幅広く紹介されている。

また、調査前は遊具の種類数が多いことが遊びの充実につながるのではないかと考えていたが、そうとも言いきれないことがわかった。理由のひとつに「集中力」の問題がある。多数の遊具があると、ある遊びをしていても目移りしてしまい、その遊びに集中できないということがアンケートなどから知ることができたからだ。今回は種類数で集計して研究を進めたが、種類数以外での集計方法を検討することについては今後の研究課題としたい。

遊具は子どもの遊びを誘ったり発展させたりする道具であり、常にそうあるべきである。そのためにも、遊具環境は子どもの発達に即し、思いに応えることができるよう、日々工夫を重ねていきたい。

### ー引用・参考文献ー

- 浅岡靖央・加藤理 編著『子どもの育ちと文化』相川書房 1998  
深沢三穂子 著『そのおもちゃ安全ですか』コモンズ 2005  
岩垣恵美子 著『幼児の発達とおもちゃ』黎明書房 1986  
岩城敏之 著『よく遊ぶ 幼児のおもちゃガイド【新版】』三学出版 2005  
岸井勇雄 編『改訂版 児童文化』チャイルド本社 1991  
松村康平・浅見千鶴子 編『児童学事典』光生館 1972  
森上史郎・柏女霊峰 編『保育用語辞典』ミネルヴァ書房 2004  
幼児保育研究会代表／森上史郎 編『最新保育資料集2006』ミネルヴァ書房 2006  
永田佳子 著『増補 よいおもちゃとはどんなもの』高文堂出版社 1994  
滑川道夫 著『おもちゃ教育論』東京道出版 1969  
NPO法人日本グッド・トイ委員会『おもちゃで遊ぼう』No.6-9 2003-2006  
多鹿秀継・鈴木真雄 編著『発達と学習の心理学』福村出版 2000  
テルマ ハームス他 著/理橋玲子 訳『保育環境評価スケール 1 幼児版』法律文化社 2004

### ～謝辞～

本研究に協力して頂いた園の先生方、園児のみなさんに厚く感謝致します。本当にありがとうございました。